

件名	令和7年度 福井市障がい者自立支援協議会 第4回 居宅生活支援部会 議事録		
日時	令和7年2月 5日(木)10:00~12:00	会場	福井市市役所 本館 6 階 第6会議室
欠席者	なし		
傍聴者	1名		
協議内容	<p>1. 協議内容</p> <p>(1)令和7年度の取り組み内容の報告及び令和8年度の活動方針(案) 資料1・2 各ワーキンググループの取り組み状況について</p> <p>(2)地域生活支援部会 委員の改選について 資料3</p>		
報告	<p>(1)令和7年度の取り組み内容の報告及び令和8年度の活動方針(案) 【坪田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域理解促進会議ワーキンググループは、中学生を対象に「みんなにとって住みやすい街を考える」をテーマにした出前講座も実施。2月7日には市民向けに「共生社会を考える集い」を予定。2月17日に成和地区の民生児童委員の会に出前講座を予定。令和6年の4月1日から民間事業者にも障害のある人への合理的配慮が義務化されたことを受けて、地域理解促進のための研修資料の更新をした。余暇活動としては各委員と確認して、ホームページにアップしたい。活動を行っている団体に移動の課題について調査を行ったが、運営会議でも「日常的に移動することの課題」についての視点を指摘された。これは来年度に持ち越すことになる。 ・親亡き後のワーキンググループは、一部修正があるかもしれないが、完成版として「障がい者福祉施策の手引き」とリンクできるところまで行った。 ・施設入所者や精神病棟への入院患者の地域生活への移行に関することは、移行定着部会の方で進めている。入所施設と精神科病院などの地域移行に関するアンケート結果の検証・出前講座の実施・ピアサポーターの活用等により、障がい者の地域理解を促進するための取り組み等は継続課題となる。地域生活支援の充実に関することは、住み慣れた地域での安全安心な暮らしの継続のために、移動に関する課題の整理と併せ検討を深めていく。福祉タクシー利用助成事業に関するアンケート調査は今年度、障がい福祉課の方で実施した。この内容を精査して検討の段階に入ってくると予想している。 ・重度障がい者の支援に関すること。親亡き後を考える時に親の存命中に、本人達はそのサービスを分かるということを前提にして、「手引きのてびき」を作ったが、施設入所者の意思決定支援が8年度から義務化されていくので、これも含めて重度障がい者の支援について考え、課題の整理と検討を行っていきたい。 		
質疑意見等	<p>【黒田氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2の3を少し補足したい。ワーキンググループのメンバーと、手引きの担当の方と協議を行い、「相談」の修正がある。この手引きの本体と、この「手引きのてびき」をセットで渡せるようにしたいので、ホームページに載せる時にはリンクしていく。手引きの方が更新すれば、リンクする部分も更新が必要なので確認して貰い、4月の終わりから5月にかけて、周知活動を開始するという見通し。 <p>【水野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ「手引きのてびき」の件だが、親亡き後の当事者の方がどこへ連絡すればいいかが分かりづらいなど思ったので、分からない時に聞くときはここへ、と強調したり、24時間繋がる電話番号なども書いた方がいいので検討して欲しい。 ・先日、家族会の方から話あり、タクシー券が初乗り運賃しか1回あたりないと。私の実家が愛知県だが4~5kmが1枚で済んでいると聞いた。財源とか色々あるかと思うが、初乗りは使いづらいという意見があった。 		

【吉村部会長】

・こういう意見があったので、次年度検討は必要かと思う。来年度の取り組みについての意見はないか。

【中村委員】

・地域理解促進について、地域活動支援センターに問い合わせがあり、利用している方への接し方について困っているという問い合わせがあったが、困っている方々に出前講座をサンプルとして障がいのある方にどう接すればいいのか等を紹介してもいいのか、また、移動支援のタクシー助成について、オンデマンドタクシーでも使えるのかを伺いたい。「タクシーに乗っていて障がいがあるように見えないと言われる」といったことについても、地域理解促進というところで取り組んでいくといいのではないかと感じている。

【城戸氏】

・オンデマンドのタクシーが利用できるかどうかはこの場で回答するのが難しいので、確認してからまた、回答させてもらう。

【北山氏】

・共同実践という名目ではなかったかと思うが、何か課題提起されて意見を聴取した件については、どうなっているのか？

【坪田】

・障がい福祉課に、課題提起シートは上げている。次どういう動きをしていかななくてはいけないのかという事は未定。居宅生活支援部会で話すかどうかは別の話という意見もある。

【城戸氏】

・前回課題提起として上がってきたので、行政もそういう課題があるという認識はした。部会で取り上げるよりは、一度行政の中でどう対応できるかというところをまず考えて、お示しできるといいかと思っている。

【橋本氏】

・来年度の活動方針案について、今まで居宅生活支援部会ではワーキンググループで、障がいのある方もない方も使いやすいようにということで進めていたと思うが、来年度に、「重度障がい者の支援に関する事」とあるが、この言葉が出てきたのはなぜなのか。施設入所なので重度という捉え方になるのか。

【坪田】

・重度障がい者の支援に関する事のテーマは残ってはいたが、昨年度は重度ということにこだわったのではなく、障がいを持った方の自立に向けたいろんな目的や一体化といった視点で、今年度は進めていた。地域生活支援部会としてきちんとみていくなかで、意思決定支援、意思表示支援といったところで、施設入所の事業所は困っているところもある。出たくないわけではないが、本人の気持ちがわからないところもあるので、地域生活支援拠点の方と協力しながら、地域移行を考えてけるといいと話している。詳細は来年度の頭にきちんと方向性を決める。

【橋本氏】

・何をもって重度というのか…。その辺はぼわっとならないようにしないと、と。

【吉村部会長】

・強度行動障害だけではなくて、ということだと思う。居宅生活支援部会として今までちょっと考えてこなかった「重度」もプラスする形はどうなのか、と思った。

その他、意見はないか。

【北川氏】

・医療ソーシャルワーカー協会の理事としてこちらの部会に参加している。その令和 8 年度から地域生活支援部会になるにあたって、医療保険分野のところに所属となっている。医療の中の福祉職として社会福祉 MSW が、福祉の立場で所属している専門職団体になっている。福祉という立場の思いが強いなかにあるが、障がいのある方が、その住み慣れた地域で生活をしていくには医療の理解は大事になってくる。今回訪問看護が入っているが、訪問診療医であるとか地域医療の医師とかも入るとか、意見が出せる専門職も入っていくと、議題を深く話し合っていけるのではないかと思う。医療ソーシャルワーカー協会も、医療の立場から協議はしていきたいと思う。

【石森委員】

・重度障がい者のグループホームが本当に少ない、ほとんどないという。親も高齢化し、強度行動障害だと施設側も対応が難しいところがある。職員数も限られている中で、どうやって家族を支えていけるか等、来年度話をしていきたい。

【稲木委員】

・親亡き後という視点でみると、日中支援型のグループホームが増えているなかで「重度の方見ますよ」というチラシとかも見るが、次の報酬改定でメスが入ってくると言う話があるので、困ることにならないのか。福井市はグループホームが増えているが、まだまだ足りてないという現状がある。重度の方だけではなく、いろんな人たちの親亡き後の居場所作りは考えていく必要がある。

【大角委員】

・8年の方針案は、移行定着の部会長も含め、事務局の方で作成した案か。重度障がい者の支援に関する課題はずっとあったけれど手をつけられなかった。ずっとこれがあったのに、居宅生活支援部会が終わろうとして今になって出てきた。もっと早く取り組まなければいけなかったのでは。親亡き後を見据えて、手引きをうまく活用しようかとか、安易に抱き合わせされていると感じる。

親亡き後を考えて出来ることと、重度障がい者の支援に関する課題の整理と検討を行うのは別立てじゃないのか。何を持って重度なのか。この部会・協議会の中で重度障がい者の言葉が本当に適切かどうかも気になる。

【宮永委員】

・療育手帳 A を持ちながら、タクシーチケットサービスについて知らないという人がいた。いろんな福祉サービスがあるが、知っている人は知っているけれども、知らない人は知らない。今回作った「手引きのてびき」を周知徹底するのに、親の会があればそこで「皆さん知ってますよね」とか、「今回こういう資料を作ったから皆さんに発信しますね」と言えるが、関わりがない人、知らない人たちにどうやって周知したらいいのか悩みの種である。出来るだけ多くの人に発信する難しさを痛感した。

【山越委員】

・先ほどの大角氏の発言に関しては、私としてももう少し突っ込んでみても良かったと思う。私の方が気になっていることは、福祉のタクシー用助成事業に関するアンケートで、私のほうにも来た。障がい福祉課に問い合わせをしたら、全員には行ってないらしい。決まった方々が利用するようなことを聞いたが、不公平じゃないかと思った。障がい福祉課も障がい者のために、発信してほしい。

【長谷川委員】

・情報は広く行き渡るような発信が大事と思っている。一方で、親が高齢化しどこの団体にも繋がってない方に繋がる人は誰なんだろう。「どこかに相談すればいいというのが分かってない」、「相談支援の体制ができていないのが分かっていない」ところが課題かと思う。地域生活支援部会としても出前講座等を行っていく中でも、もっと広く色々な方々との繋がりを持って行かなければいけないのではないかと感じたところ。8年度は、ピアサポーターの活用となっているが、ピアサポート現状がわからないので、教えて欲しい。

【丸山委員】

・周知、広報の問題があることについて、私も同様な意見。出前講座については、団体には理解している人がいるが、一般の方で興味を持つ人は少ない。どのように市民の皆さんに興味を持って貰えるか、関心を持って貰えるかが大事だと感じている。全体的な広報が必要である。

【竹澤委員】

・重度障がい者、これは誰が対象になるのかというのが全然わからない。親亡き後を見据えて、とはどんなことについての課題の整理と検討をしていくのか。親が高齢になってきた人たちの生活のことを考えるのか、親が若くても当然いろんな課題はあるだろうから、その人たちも対象に考えていくことなのか。このままだと、次年度に何からやるか全然明確になってないので、迷いながら始まると思っている。誰を対象に、どんなことを取り組んでいくのか明確にし、協議をした方がいいのかと思う。

・事業に取り組むには予算のところも示されるもの。予算も示されていると、次年度もっと取り組みやすくなるかと思う。

【吉村部会長】

・案なので、これが決定ではない。皆さんから意見は出していただいて、軌道修正したものを出していかないとけないと思っている。

・私が居宅生活支援部会になったときに「強度行動障がいの方の支援をどうする」について。前期の3年間は進んできた。親亡き後というところをしっかりと見据えた上で、どのようなサービスがあってどういう形でやるのか。親亡き後の方たちの居場所を作るとか、居場所作りにフォーカスしていくとか、具体的な文言がここに入っていく。障がい者の方の意思決定支援というものも大事。親がいる間に、またいなくなった場合に公的なもの、公的でないところのサービスには何があるだろうか、何ができるかの課題と整理検討を行うということだが、「重度」という言葉がついていることで、そこに引っ張られている。「重度」というのは外した方がいいように感じた。

【山越委員】

・重度障がい者の方のことに経験したことがある。両親が亡くなる。残ったのは2人息子、長男は先に亡くなり次男が1人残っている。本家のルートで他市から私の方に連絡があり、繋いでもらって話を進め、その方ももう亡くなって綺麗に片付いた。

【水野委員】

・精神に関しては重度障がいと言うよりも、孤立している、引きこもりとのケースが多い。家族が歯を食いしばって面倒を見てても、親がいなくなったらどうするか。根本的に国の制度が正直貧弱で、医療も拒否しているケースが多いので、ひきこもりの方が相談するという事にはならない。もっと福祉の力、ソーシャルワーカーの方がどんどんアウトリーチできるような環境が必要。福井の場合は3世代率も高く、家族の絆も強いので、家族が踏ん張っているが、そうでない家族もある。家族がそれで同じように辛い思いをすと言うのは本末転倒だと思う。予算の話もあったが、福祉は他の産業とは違って、自力でその予算を組んでいくことはできない。そこは公助に係ると思っている。予算のことも含めてやはり必要なと思う。精神については、重度と言うよりは、関わりをいかに作っていくかというものを求めていきたい。

【北山委員】

・予算に関しては、協議会に対して部会に対して、何かしらの方針や指示していただかないといけないという問題提起をしたい。

・今年度、私の事業所で親亡き後をテーマにして、数十名から得たアンケートの結果があるが、活用してもらえら提示することはできる。年代によっても課題は違う。障がい種別関係ないとは言えども、障がい種別によつての課題も違う。やりようによっては、その年代に応じて、どうアプローチするグループを分けるのか、若年層と壮年層とを対象者によってそのアプローチと課題を分けるということにもなってくるので、そういう中身にするのであれば、これだけで次年度が終わってしまうような大きな課題なのではないかと思う。

【吉村部会長】

・予算に関してはわからないが、冊子を何冊かは作れるぐらいの予算はぜひつけていただきたい。

・親亡き後は、このところはやるが、重度障がい者の重度は抜かせさせて頂いてもよろしいか。

【坪田】

・何を指して、重度というのか。課題はあっても、親と本人が共生していくような視点で書かれているが、私らが関わってる利用者では、親から嫌われている、親類から嫌われた、孤立している方が結構いる。一人でSOSが出せない方も結構いる。重度障がい者のままでいいのではなく、重度というのが何かを考えることも大事、共生社会を考えたら色々な課題が出てくる。その中で課題の整理をしていかななくてはと思う。その中で8050、引きこもりや孤立があり、親が高齢になりしんどくて、近所の方にも協力してもらえない人達とか。それは色々な個別の案件にもなってくるのかもしれないが、意思決定も含めてトータルに大きい項目として上げてもいいのではないかと思う。

【城戸氏】

・重度障がい者の支援に関することと、親亡き後が一緒になっているので違和感があるのかと。部会としては強度行動障がいの方を始めとする重度の方の支援に関することも、きちんと地域生活支援部会で協議していかないとは思っているので、消すのはどうかと思う。

【水野委員】

・それぞれ重度の捉え方は様々だと思うので、象徴的な形で地域の障がい者の課題として重度で残せばいいのでは。

【大角委員】

・重度障がい者の支援に関することは、前から課題が残ったままで、強度行動障害の方に特化されていた。今この場でなくすってという判断はできないと思う。その課題を取り組んだ結果、この課題は解決に向かうまでやらないと。この重度障がいの言葉は嫌な人もいるし、このニュアンスなり、中身が分かりにくいので、このまま残すしかない。

【北山委員】

・重度障がい者の支援の課題なり、ずっと残っている課題。その課題の具体的課題を共通にした方がいいのでは？

【坪田】

・強度行動障害の支援者研修はずっと前の部会の時にやってきた。強度行動障害支援のことを色々調査もした。その後、県の方で強度行動障害者の集中支援が始まり、市の方はひと休みした状況かと。その他の重度障がいについての協議は行ってなかったかと。スタートがわからない。

【吉村部会長】

・6年前には強度行動障害者を地域で受け入れるところがなかった。生活介護でもグループホームでも全部断られる。ワーキングチームにいたのは、私と北山さんしかいなかった。強度行動障害のことを理解していない。支援者が疲弊している。支援者同士が意見交換しながら、頑張ろうねって言えるような「学習・交流会」を作り何回か実施した。ワーキングチームの有志によって取り組んできたことを3年間。しかし、居宅生活支援部会で考えていることでいいのか。福井市全体、子供の時から強度行動障害者にしない、そういう取り組みが必要なので、自立支援協議会で、全体で考えるべきということとして、バトンを渡した。重度の括りでの支援に関する協議を継続的に居宅でやってきたというイメージはない。強度行動障害児者を支援している家族は、こういう場には来れない。

重度障がいの支援に関することを、地域生活支援部会に考えるべきだと皆さんが思うなら、重度障がい支援に関することは残してもいいと思うが、親亡き後のことは「重度」に引っ張られるのではと危惧する。入れるべきとなれば、次年度にかなり大きなボリュームになってくのでは。重度を残すのであれば、地域生活支援部会に大きなバトンを渡すことになる。

【北山委員】

・重度イコール強度行動障害の事がピックアップされるのであれば、強度行動障害の課題というのは3年前に渡したのでフィニッシュ。問題は解決してないが、他の重度を想定されているのであればどんな課題が想定されるのか。身体的に動かない ALSの方が在宅で生活するためにはとか、重度心身障がい児者のその居場所も課題だし、他の重度の課題を言って頂きたい。それがフワっとしているならば、次の年に投げていく話かと思う。

【黒田氏】

・元々この重度障がい者の支援に関することが、その強度行動障害以外のところで具体化していない。次年度にどの対象の方を掘り下げてやるのかをこの形態で残して、課題の精査をする必要がある。

【吉村部会長】

・補足資料としては、次回の会議にも自分も参加するので、部会でそういう話が出たことは伝える。親亡き後見据え、課題の精査のところは、同意はしてもらえるか。

【竹澤委員】

・この「親亡き後見据えて」と言うのを見た時に、どこからがこの対象なのかと言うのは分からない。親が元気なうちはこの支援の事については考えないのか、親亡き後の課題か。親がいよう

<p>まとめ</p>	<p>がいまいが課題はたくさんあるので、親が元気な重度障がい者は除外と言う捉え方にもなってしまわないか。</p> <p>【北川委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親亡き後という言葉は多分アンケートからの言葉でもある。その当事者の方には親がいる、いないに関わらず、自分が望む暮らしはできるかどうか。親がそれを心配して、親なき後を心配していることだと思う。親がいようがいまいが、重度だろうがそうじゃなかろうが、当事者の望む暮らしをするための課題は何なのか、その地域の課題は何かと言うところを考えれば良いのかなと思う。「親亡き後」という言葉に固執する必要はないのでは。アンケートから親がそこを心配していたということなので。 <p>【吉村部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「当事者本人の望む(自立した)生活を送るための課題を整理し、検討する」という事で落ち着くのではないかと思う。いかがか。 <p>【城戸氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行地域定着部会は終了しているため、事務局で協議しながら、進めていきたい。
<p>報告</p> <p>質疑意見等</p>	<p>(2)地域生活支援部会 委員の改選について 資料3参照</p> <p>【城戸氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は所属を確定していくような段階になり、当事者団体、家族や協会、協議会等の団体には推薦依頼をかけ、団体から選出するような形で考えている。 ・居宅介護事業所や共同生活援助事業者、地域定着支援事業者や特定相談支援事業所は任意の連絡会等が立ち上がっているの、そちらに依頼をかけ選出して頂く。その他、主に事業所については、他の選出された団体との兼ね合いを見て、部会長等々と協議相談して行きながら選出して行きたい。 ・これまで皆様と協議してきた内容をしっかり引き継ぎながら、次年度から、新たなメンバーと共に引き続き協議をして行きたいと考えている。 <p>【大角委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇冊子の内容とか、よくここまで仕上げたと驚くし尊敬する。相手の連絡先、携帯番号とか承諾は取っていると思うが、電話していい時間帯とかの確認も必要なのでは。 <p>【城戸氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回は時間帯までは載せてなかったと思う。また、現時点では、修正掲載もしづらい状況にある。 <p>【吉村部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅生活支援部会で作成したものなので、電話での迷惑案件の情報があれば、ご連絡頂きたい。 <p>【水野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、新しい組織の話だったが、全体会については私も含めて意見があがったと思うが、変えたところとか…このあたりの状況を知りたい。 <p>【吉村部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の運営会議の方で、全体会議に当事者が出られないのは、自分たちのことを自分たちで決められないという意見が出たということ部会の方で報告した。アドバイザーという形で必要に応じて入ると聞いた。個別で説明すると聞いている。 <p>【城戸氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会に当事者が入っていない事で、水野委員から意見を頂いたが、専門部会それぞれに当事者の方に入って頂く予定で今考えているなかで、課題の意見が反映されないということがないように協議会として体制もきちっと整えていき、全体会議に当事者が入らないことをマイナスに捉えて頂かなくてもよいように、専門部会で話し合われたことがきちっと伝わっていくような形を取らせて頂きたいと考えている。全体会への代表としての参加は責任とか負担感が大きいところがあるかと思う。 ・全体の場というよりは、専門部会等でそれぞれの声を拾い上げるような仕組みを作っていくところが、ステップとしては次年度以降必要かなと思っている。当事者の方々には、活発な

協議が予想される専門部会で、ぜひ意見、力を貸していただきたいのでよろしくお願いいたします。

【水野委員】

・検討していただいたのは感謝する。資本主義の中で生きていて、商品の良しあしを決めるのは消費者。これと同じで、当事者が決めること。当事者がいない中で決めるのは、本来あるべき姿ではないことを念押ししたい。少しずつ前に進んでいることは評価するが、負担になるとか、そういうことは、少なくとも私については全く検討違い。部会長からは意見を述べる機会があるのでは、という話があったが、その辺りが曖昧になっている。このことは、本当に課題として取り組んでいただきたい。アーカイブの件はどうなったのか。生放送で、仕事があるとこれは見れない。前回の居宅部会の記録見てたら、グループホームの検討会はありますよといったミスマッチが起きた。他の動きがわからない中での発言になる事もあるので、そこはオープンにすべきだと思う。

【城戸氏】

・また運営会議に部会長からこの件は上げ、検討していきたい。

【宮永委員】

・確認だが、今の部会では、身体と知的と精神の3人が出ている。誰か一人になると、他団体の困っていること等がわからない。そうすると、当事者団体の中で意見を集約して出てほしいということか。実際この3人が事前に集まって話をしてくれと言われても、非常に難しいところがある。その辺はどういう考えか。

【城戸氏】

・集まって、話してくださいっていうところまでを求めているわけではない。例えば身体の方が出ている、知的な話になってわからない部分があったら、その別の団体に聞くなど、そういうネットワーク作りはこちらも強化していきたいと考えている。

【水野委員】

・会議中にタイムラグは起こる。例えば精神の話が出たときに当事者がいなかったら、そこで会議が終わってしまい次回に持ち越し。今のままだと、会議の進行は遅延する。私としては、他の家族会のメンバーにも聞かすが、各部会に1人ずつ出せるようにつとめて行きたいと思うが、4月からできるかと言ったら多分それは無理だと思う。4月1日にも固定メンバーでやるっていうよりは、少しずつ改善していく方向でやっていかないといけないかなと思う。

【城戸氏】

・この話は、各部会だけの話ではなく、全体の協議会として必要な検討事項になってくるかと思う。運営会議等できちんと話していくべきかと思う。

以上をもち、本日の議事は終了。